



国臨協関信

HPアドレス <http://kanshinshibu.org>

平成25年 1 月

事務局 〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
国立国際医療研究センター病院中央検査部内
発行者 浅里 功
編集委員 峰岸正明・小池容子・長井俊道
印刷所 東洋印刷株式会社
☎03-3352-7443



越後湯沢 ぼくぼく線車窓より (撮影：NHOさいが病院 大木翔平 2012.12)

新年の御挨拶

国立病院臨床検査技師協会関東信越支部
支部長 浅里 功



新年明けましておめでとうございます。
皆様におかれましては健やかに新年をお
迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年はロンドンオリンピックが開催さ
れ、なでしこジャパン、卓球団体、競泳
チームなど団体競技での活躍が目立ち、
日本人の「チーム力」を再認識いたしまし
た。また、山中教授のノーベル賞受賞に国中が沸きました
が「さらにこれから研究を続け、一日でも早く医学に応用しな
ければならないという気持ちでいっぱいだ」との熱意や謙虚
なお人柄に感銘を受けた方も多かったのではないのでしょうか。

さて、昨年の関信支部学会は第40回の記念学会でしたが、
一般演題53題、OBを始め384名の方にご参加いただくなど活
気あふれる学会となりました。また、4職種による「メディ
カルスタッフとの協働・連携を踏まえた臨床検査」のシンポ
ジウムでは「今後は複数の職種の連携に関する教育・啓発の
推進が重要」との発言がありました。関信支部としても他職
種と連携した研修会の企画、啓発活動に努め、「チーム力」

に繋がる人材育成を支援したいと考えています。

また、研修会はルーチンアドバイザーを活用、第1回研修会
は微生物部門、第2回研修会では血液部門・一般部門のルー
チンアドバイザーに講演をお願いしました。群馬地区会共催研
修会は感染防止対策加算などが新設されたこともあり、感染
管理認定看護師による地域連携の事例紹介を、NHO埼玉病院
との共催研修会では一部ハンズオンによる心臓超音波検査研
修を開催し、いずれも好評でした。今後、超音波検査士認定
試験対策セミナー、症例検討会(NHO横浜医療センター症例呈
示)を予定しておりますが、多数のご参加をお願いいたします。

なお、年5回発行の関信支部ニュースは2回をPDF版とし、
印刷物発送ではなくHP掲載といたしました。HPの活用と併
せご意見をお寄せ下さい。

最後に、定期総会が4月に開催されますが、国臨協関信支
部規約改定により「会員2分の1以上の出席をもって開会とし、
議案は出席会員の過半数をもって決議する」とこととなりまし
た。総会への出席(委任状出席)は会員の権利であり、欠席さ
れる方は必ず委任状の提出をお願いいたします。

「会員の身近に位置する関信支部」本年もよろしくお願い
申し上げます。

NHO関東信越ブロック事務所統括部医療課
臨床検査専門職 上 條 敏 夫



新年明けましておめでとうございます。
国臨協関信支部会員の皆様におかれまし
ては、健やかに新年をお迎えのこととお
慶び申し上げます。

また、現在単身赴任や遠距離通勤を余
儀なくされている方々、日頃よりさまざ
まなご尽力をいただいている各施設の検
査技師長をはじめ検査科(部)スタッフの皆様、この場を
お借りして心より感謝を申し上げます。

昨年、関東信越ブロック事務所では主任技師等任用候補者
選考が2回目を終え、採用時の登録選考から主任技師任用候
補者選考へと、人事管理制度の一つ形が定着しつつあります。
また、臨床検査試薬の共同入札が昨年10月より、機構本部
主導で実施されました。入札は、本州エリアに属して行われ
ましたが、内容については広域かつNC参加により、今後の
展開に注目しながら、それに伴う課題について検討の必要が
あると考えます。

さらに、機構本部の新たな研修として資格認定機関研修
が開始され、資格取得を目指す受講について、金額面・時間
面での支援によるスペシャリスト育成を目的としています。
認定輸血検査技師が支援資格となっていることから、今後の
認定資格取得者の確保や技師育成を考慮し、積極的なチャレ
ンジとそれを応援する職場体制が必要となってきます。

さて、今年は国立病院機構の定められた第2期中期計画の
最終年度にあたります。今後の機構本体の動向が最大の焦点
となりますが、我々は組織人として、一丸となって日々の業
務を遂行し、検査の質向上を基本に医療連携・人材育成など
各種の取り組みについても、積極的に参画していかなくては
ならないと考えます。今後の臨床検査部門の発展のため、ま
た新たな未来を構築していくためにも、国臨協ならびに各協
議会が共に協力し合い、我々一人ひとりが自覚を持って、多
くの壁を乗り越えていかなくてはならないと思います。「one
for all ～一人はみんなのために～」を合言葉に、前を向い
て共に頑張って参りましょう。

本年も引き続き、皆様のご協力とご支援を賜りますようお
願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご活躍を祈念し、
新年のご挨拶とさせていただきます。



茨城地区会会長 ……………海 原 桂 一



新年あけましておめでとうございます。関信支部会員の皆様には健やかに新たな年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

茨城地区会では水戸医療センター、茨城東病院、霞ヶ浦医療センターの3施設で構成され、総会員数43名の精鋭で日々健闘しています。

昨年の地区会活動は第32回国臨協会関信支部茨城地区会定期総会を6月に開催し、11月にはボーリング大会など会員の親睦を図るための交流会や研修会を開催致しました。

茨城地区会では年1回"いばこミ"(茨城地区会コミュニケーション)を発行しています。

今回で12号になり、内容として新人紹介や趣味等(以外な趣味を堪能している技師さんの再発見があったりします)を掲載した新聞です。

国臨協関信支部のホームページ(地区会のページ)を是非御一読してみてください。

国臨協関信支部において40回記念学会が開催され、地区会ポスターでは健闘虚しい結果にはなりましたが、大変充実した学会になり支部長はじめ役員や担当施設のスタッフに対し、心より感謝申し上げます。

さて、昨年は社会面においては暗いニュースも多々ありましたが、明るい出来事としてノーベル医学生理学賞を受賞した山中伸弥京大教授の功績が一番印象的でした。

再生医療実現に大きな道が開け、今後の医療に革新的な影響を及ぼすと思われます。

研究段階ですが、今まで難病とされている疾患の診療が可能になり、明るい未来が期待できそうですね。

最後になりましたが、関信支部の皆様にとりまして希望や夢が実現できるような輝かしい年でありますように、心からお祈り申し上げます。

栃木地区会会長 ……………竹 下 昌 利



新年あけましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様には輝かしい新春を健やかに迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年は、震災復興元年と呼ばれ東北各地域では地元の皆様の努力と全国からの支援のもと復興に立ち向かいました。しかし日本経済の成長の低迷、政治の混乱などで昨年末には衆議院が解散する事態となり、被災

地の整備が中断するなど日本経済の混迷を象徴する一年でした。技師会では、我々の大切な仲間を失うという悲しい別れもありました。そんな中、ロンドンオリンピックではレスリング吉田選手の金メダル奪取から、日本人の活躍が報じられ勇気付けられました。なかでも、男子水泳400メートルリレーでは、「康介さんを手ぶらで帰すわけにはいかない。」と3人の侍が士気を高め、先輩を盛り上げ実践した言葉に日本人の勇気と優しさを感じました。私たちはチーム一丸となり職場を盛り上げていくことを求められています。一人ひとりが相手の気持ちを理解し、お互いを勇気付け研鑽を重ね検査科を良い方向に作っていかねければなり

ません。栃木地区会には2施設しかありません。移動も車で15分です。仲間も多く、言い換えれば協力態勢の取りやすい2施設でもあり研修、勉強会を通じ地区会の運営に参画したいと考えています。支部役員の皆様方にもこの弱小地区会にハード、ソフトの面でのご協力をお願いいたします。

最後になりますが、関信支部会員の皆様、支部役員の皆様のご健勝とご活躍を祈願し新年の挨拶といたします。

群馬地区会会長 ……………野 田 岳



新年あけましておめでとうございます。謹んで初春のお慶びを申し上げます。会員の皆様におかれましては幸多き新年を迎えられたことと存じ申し上げます。

さて、ここ群馬の高い山々は真っ白な装いとなり、まさに冬本番。また、私の勤務している高崎では、冬の名物詩「空っ風」が真っ盛りです。一方、沼田や渋川、草津は山間部特有の非常に厳しい気候の中にあります。気候の差異と同様に、特色の異なる群馬地区会4施設は、それぞれの責務を全うするため、業務に励んでいます。

さて、昨年は国臨協関信支部共催で「地域連携を考えた感染対策」と題して9月29日に大宮ソニックシティビルに於いて研修会を開催いたしました。多数の会員諸氏にご参加頂き、大変盛況のうちに終わることができました。群馬県地区会役員一同ほっと一安心しております。

10月6日には群馬地区総会を開催しました。浅里支部長、上條専門職をお迎えして、ご講演を頂き、その後「国際協力とラオス病理の現状」と題して、高崎総合医療センターの遠藤主任臨床検査技師による講演を聴きました。総会後には懇親会まで盛況に開催されました。

国立病院機構のおかれた立場には厳しいものがありますが、一人一人の会員が明るく楽しく業務に励むことができるように、地区会から盛り上げていきたい、と考える次第です。今年は昨年以上に頑張って参ります。

千葉地区会会長 ……………今 村 ち さ



新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様には佳き新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年は未曾有の大震災から復興元年の年、希望と絆で立ち上がる一年でした。東京スカイツリーの開業では明るい未来を感じ、何と言ってもロンドンオリンピックでは選手に勇気もらい、空の金環日食に期待して自然のロマンに感動しました。

昨年の千葉地区会では5月に文化活動としてビール工場を見学。こだわり麦芽の特徴から鮮度を保つための製法過程を学び、おいしいビールの注ぎ方を教わり実践してきました。見学後、隣接する会場で歓迎会を行い新会員との交流の場が持てたことはとても有意義でした。また7月には千葉医療センターにおいて第31回総会・研修会を開催いたしました。研修会では「PCM (Project Cycle Management)」についてと題して国立国際医療研究センター国際医療協力局の野田信一郎先生にご講演いただきました。PCMとは問題解決を運営管理する手法で、問題分析には多数の意見で全体を把握し、具体的に問題を定義し、優先度をつけることが大切と日常検査業務にもたいへん役立つ考え方を教示いただきました。

71名の会員から成る千葉地区会には6施設が比較的近在しています。この恵まれた条件のもと、会員一人ひとりが臨床検査業務における知識や技術の修得のみならず、医療全般の情報交換ができ、共有化が図れるように関信支部と密に連携をとり、橋渡しの地区会になるよう役員一同取り組んでいきます。

最後に皆様方のご多幸と益々のご活躍をお祈りし、新年の挨拶とさせていただきます。

神奈川地区会会長 …………… 川 畑 久



新年明けましておめでとうございます。関信支部会員の皆様には輝かしい新春を健やかに迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、震災後一年以上が経過し、被災地の復興と諸問題の解決が進まないうなか、7月に第30回夏季オリンピックがロンドンで開催されました。メダル獲得が有望であった柔道・レスリング・体操・競泳・フェンシング・etc、日本人選手のメダル獲得に一喜一憂し、多くの人々に感動と希望を与えてくれたことはつい昨日のことのようです。

さて、神奈川地区会において、昨年10月にNHO箱根病院神経筋・難病センター会議室において平成24年度第31回神奈川地区定期総会・研修会を参加者39名で開催いたしました。学術講演は「筋疾患・筋生検」と題してNHO箱根病院神経筋・難病センター研究検査科長 三原正敏先生にご講演をいただき、筋疾患における精度の高い検査法として筋病理検査のHE染色・免疫染色標本を疾患別に提示され大変興味深い内容でありました。

今年も神奈川地区会会員皆様の協力により、昨年と同様に施設相互の交流と会員の親睦を図るため一致団結し協働することを目的に活動していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、関信支部役員並びに会員の皆様のご健勝ならびにご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新潟地区会会長 …………… 桑 村 良 隆



新年明けましておめでとうございます。新潟地区会を代表し関信支部会員の皆様に新春のご挨拶を申し上げます。

昨年、ノーベル生理学・医学賞を「人口多能性幹細胞 (iPS)」を開発した「山中伸弥京都大学教授」が受与されたことは記憶に新しいところですが、研究者として決して順風満帆でなく挫折の連続だったが再生医療の扉が開けたと語っている。患者の命を救うレベルには至っていないが、10年以内には、いくつかの疾患で臨床試験を始めるのが目標としている。また、山中先生は指導者でもあるためその指導にあたっては、自分の思考で若手の自由な発想を委縮、阻害させないよう気を付けていると語っている。新潟地区会は西新潟中央病院、新潟病院、さいがた病院の3施設24名の会員で構成されています。施設間の親睦を図り会員の資質、学術及び技術研鑽の向上を目的に研修会を開催しております。昨年の研修会では、新潟大学呼吸循環外科新潟大学災害・復興科学研究所「榛沢 和彦先生」に「東日本大震災後の静脈血栓塞栓症 (エコノミークラス症候群) 予防検診経過とイタリア北部地震の調査結果について」ご講演いただきました。地区交流会は持ち回りで開催し、施設間の親睦を深め情報交換を行っております。会報誌「朱鷺っと」を年3回発行し新会員の自己紹介、学会抄録、また、会員に執筆をお願いして趣味等(無条件)を掲載し、トピックス的な内容も含め会員に情報提供しております。関信支部記念学会の地区会コーナー掲示では一昨年に引き続き2位になり残念でしたが、今年はもう一つ上位を目指し知恵を絞りたいと考えております。迅速で正確な検査データを提供し信頼ある検査技師を目指し、また関信支部の更なる発展と会員皆様のご多幸を祈念し新年の挨拶といたします。



長野地区会会長 …………… 中 野 正 直



新年明けましておめでとうございます。関信支部会員の皆様には、新春のお慶びを申し上げます。

長野地区会では、昨年6月に総会と第1回地区研修会を「分子標的薬とコンパニオン診断薬について」のテーマで信州上田医療センターで、12月には関信ブロック専門職を招聘し、第2回研修会をまつもと医療センター松本病院にて開催し、地区会ニュースも例年通り2回発行して、地区活動を進めてまいりました。また、盛会裏に開催された第40回関信支部記念学会では、地区会コーナー優秀賞を受賞いたしました。この受賞は、広報理事始め各理事の努力と会員37名の結束の賜であると思われました。

昨年を振り返ると、夏はオリンピックに熱狂させられ、日本は健闘し、史上最多の合計38個のメダルを獲得したのは記憶に新しい事です。そして、各国の指導者選びの年でもありました。悲しい出来事は、関信支部の仲間が、相次いで逝去した事です。今までの功績を賞賛し、ご冥福を祈りつつ、心身が健康であることの大切さを改めて痛感しました。

ある居酒屋で、こんな貼り紙を見ました。

「打つ手は無限」滝口 長太郎氏より引用

すばらしい名画よりも とてもすてきな宝石よりも もっとも大切なもの 私は持っている どんな時でも どんな苦しい場合でも 愚痴を言わない 参ったと泣きごとを言わない 何か方法はないだろうか 何か方法はあるはずだ 周囲を見回してみよう いろんな角度から眺めてみよう 人の知恵も借りてみよう 必ず何とかなるものである なぜなら打つ手は常に 無限であるからだ

流動的な社会情勢の中、臨床検査部門においても発想を豊かに、前向きである年にしたいものです。

本年が皆様にとりまして、明るく良い年でありますよう祈念いたします。

東京・埼玉・山梨地区技師長会会長 …… 石 井 幸 雄



新年明けましておめでとうございます。関信支部会員の皆様には健やかに新たな年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

昨年は、法隆寺の五重の塔を参考にし、既存の電波塔である東京タワーに代わる新タワーとして東京スカイツリーが開業いたしました。隅田川の水をモチーフとし、江戸で育まれてきた心意気を表した淡いブルーの「粋」と江戸紫をテーマカラーとした美意識の「雅」という2つの異なるライティングが1日毎に交互に見ることが出来ます。また、夏に開催されたロンドンオリンピックでは、メダル総数過去最多の38個を獲得し、中でも団体競技での強い絆(みんなが1人のために、1人がみんなのために)のチームワークでメダルを獲得した事がとても印象に残りました。

さて、東京・埼玉・山梨地区には地区会がなく、当該地区の会員の皆様には情報提供が不十分ではないかのご意見があります。東京・埼玉・山梨地区臨床検査技師長会では、昨年開催いたしました総会において、関信支部より提案されました「東京・埼玉・山梨地区のあり方」についてのワーキンググループにメンバーを推薦いたしました。地区会を発足するために前向きな意見が出され、討論されることと思われます。当該地区の会員の皆様には地区会発足に対しての意見交流の場として、本年の東京・埼玉・山梨地区臨床検査技師長会総会と同日に開催する研修会への参加を呼びかけ、地区会発足の第一歩として参りたいと考えております。

最後に関信支部役員並びに会員の皆様のご健康とご活躍を祈念して新年の挨拶といたします。



NHO霞ヶ浦医療センター ……原 正 敏



新年、明けましておめでとうございます。

国臨協関信支部会員の皆様方におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私は、一昨年国家試験に合格して、国立精神・神経医療研究センターに非常勤職員として勤務しておりました。

昨年4月から霞ヶ浦医療センターに採用となり、検体検査部門(一般・血液)・採血業務を担当しています。

新しい環境の中で、日常業務や当直業務をこなすことに精一杯で、あっという間に数ヶ月が過ぎました。まだ様々な業務内容を覚えるのに必死で、特に輸血検査では技術・知識面で足りない点が多く自分の勉強不足を痛感しています。

更なる努力が必要だと感じており、先輩技師から丁寧に教えて頂いたおかげで少しずつ落ち着いて物事を考えられるようになったと感じております。

今後は国臨協や茨城県技師会等の勉強会・研修会を積極的に参加し、自己のスキルアップを目指したいと思います。また、そこで得た知識を患者様の検査報告に役立てるようしていきたいと思います。

生活面においては目標は、今年は人生2度目の年男を迎えたので今まで以上に健康管理をしっかり行うことです。具体的には食事のバランスを考えながら料理に取り組み、趣味であるロードサイクリングやトレッキングにより体力維持に努めたいと思います。

最後になりましたが、国臨協関信支部会員の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

NHO宇都宮病院 ……小 川 佳 亮



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年は、食品衛生法の改正により牛レバ刺しの販売が禁止され、禁止前の駆け込み需要でレバ刺しによる食中毒が多発しました。また、牛レバ刺しが禁止され、豚の生食が隠れたブームと

なりましたが、豚は牛より危険です。研究が進み、皆が安心して安全な肉の生食が可能となる時代が早く訪れることを期待しています。

先日、当院でも焼肉を食べた患者からベロ毒素陽性のO-157を検出し、臨床所見からも腸管出血性大腸菌感染症の方がいました。私は、細菌検査歴4年となりますが、O-157を初めて経験しました。改めて、食中毒の危険を感じたと共に細菌検査室の重要性を再認識しました。今後も臨床に迅速かつ的確な情報を提供すべく、知識、技術、経験を積み重ねると共に、医師とのコミュニケーション、コンサルテーション能力を磨いていきます。さらに目標である認定臨床微生物検査技師の資格取得ができるように日々

努力していきたいと思います。

さて、当院は2013年1月1日から電子カルテの運用が始まりました。本紙投稿現在、悪戦苦闘しながら電子カルテ後の業務が円滑にできるように、新システムの構築に取り組んでいます。何分、経験が浅いため会員の皆様から多くのことをご教示いただきました。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。本年度もご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

NHO西群馬病院 ……松 井 孝 男



国臨協関信支部の皆様、新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

私は昨年4月より地元群馬での勤務となりました。毎日が多忙で「あっ」と言う間に新年を迎えた感じです。振り返ると日々に余裕がなく、目の前の事しか出来なかったように思えます。

当院は現在、渋川市立渋川総合病院との再編成計画により、新病院の建設に向けて本格的に動き始めました。検査科においても全力で取り組んで行かなくてはならず、その為にもこの一年は大変重要な節目の年です。昨年の反省を基にフットワークを利かせ、円滑に業務の管理を補佐出来るよう取り組むことが私自身に求められると思います。その際には、「明るく、風通し良く、前向きに」を念頭に置いて、気持ちにゆとりを持って着実に一步一步前進して行きたいと思ひます。

さて、私は毎年年頭に抱負を立てますが、年末にはいつも忘れ去っています。今年こそはきちんと達成されている抱負を立てようと思ひます。そこで、今年の抱負は「成長」です。昨年は副技師長としての立場を経験し、まさに「勉強」の毎日でした。昨年の「勉強」が無駄にならないようにしっかりと身に付け、自分自身を「成長」させて行きたいと思ひます。そして、西群馬での経験が自分の中での「大きな自信」となるように頑張りたいと思ひます。

最後になりましたが、皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、本年もご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

NHO千葉東病院 ……山 崎 美 保



新年あけましておめでとうございます。国臨協関信支部の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私は一昨年4月に千葉東病院に採用となり、主に細菌検査に携わっております。採用当初は、細菌検査業務の他、夜間緊急検査業務など、目の前の業務を覚えることに必死で、あっという間に

1年が過ぎてしまいました。2年目の昨年は、担当している抗酸菌検査に関する演題を国立病院総合医学会にて発表させて頂きました。初めて演者として参加する学会では、多くのことを学ばせて頂きました。

また、関信支部や千葉地区会の様々な研修会に参加させて頂き、とても勉強になったのと同時に普段の自分の勉強不足を痛感致しました。3年目となる今年は、このような研修会等を活用し、得た知識を少しでも業務に反映できるよう日々努力していきたいと思ひます。また、認定試験取得を視野に入れ、2級試験等に積極的に挑戦し、スキルアップを図りたいと考えております。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。本年もご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

NH O相模原病院 ……………中 江 真 莉 子



新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。私は、平成23年4月に国立成育医療研究センターに非常勤職員として採用になり生理検査室で勤務しておりました。平成24年7月に当院、NH O相模原病院に採用となり前の施設と同様に生理検査を担当しております。当初は何も分からず自分の力不足を身に染みて痛感しました。特に最初の1ヶ月は方向音痴の私は、よく病院内を迷っていましたし、業務を先輩技師にくつつきながら覚えるのに精一杯でした。また、もうすぐで2ヶ月経とうとする頃には当直業務にも就きました。検体検査とは無縁だったので1から覚えるのに必死で当直の時はいつも寝られないほど緊張していました。今では大分慣れ自分のペースですが一つ一つと業務をこなしています。しかしまだ初めて行う検査が来た時は少し焦ってしまう部分があります。その時は諸先輩方に暖かく指導して頂き、その教えを自分の糧としてがんばっています。もうすぐで半年が経とうとしています。今年の目標はまだ知らない領域である超音波検査や認定資格にも挑戦していきたいと思っています。また学会や研究等にも積極的に参加し、自己のスキルアップと医療現場において貢献できるように日々努力を重ねていきたいと思っています。最後になりましたが、会員の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

NH O新潟病院 ……………玉 井 真 紀



新年明けましておめでとうございます。関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、一月に育児休業から職場復帰し、あっという間の一年を過ごしました。仕事と育児の両立は考えていた以上に厳しく辛い時もありましたが、育児だけの生活から一

転して、体を動かし、患者様と接し、仕事ができる喜びを感じた年でもありました。また、自分の仕事に対する意識を再確認する良い機会にもなりました。この一年をなんとか乗り越えることができたのも、技師長をはじめ検査科職員のご理解とご協力のおかげと心から感謝しております。

そこで新年の抱負ですが、昨年の反省を踏まえ「ためない」ことを目標に過ごしたいと思っています。仕事をためない、エコー所見をためない、不満をためない…などです。いつも新年には心に決めますが、当たり前のことのようで私にとっては実に難しいことです。今、目の前にあることに全力投球し、一日一日を大切に過ごしていくことが将来に繋がると考えます。今年は巳年。ある本によると巳年生まれは同情心が厚く、人のために尽くすといわれているそうです。それに習い患者様のために努力を惜まず、いい仕事ができるように過ごしていきたいと思っています。

最後になりましたが、今年一年が皆様にとって良き年でありますよう心からお祈り申し上げますとともに、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

NH O信州上田医療センター ……佐々木 美 樹



新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

信州上田医療センターに転勤となり早いもので4年目を迎えました。また、生理検査業務に携わるようになって10年目となりました。

諸先生方や諸先輩方に指導を頂きながら日々勉強していますが、年々後輩が増え、自らの経験や得た知識を伝えなければならないというプレッシャーの中に身を置いています。後輩を育てるということは、教える側が広い知識を持ち、かつよく理解をしていなければならないことと自覚しています。そのため今年は「より一層勉強し、自己研鑽に努めていく。」を目標にします。

新年の抱負といえば、仕事のことばかりでしたので、今年は私生活での抱負を考えてみました。ズバリ今年は「時間を有効に使う」です。書店でみつけたある本の中にゲーテの言葉がありました。「常に時間はたっぷりある。うまく使いさえすれば。」それを見てハッとしました。とても短い言葉ですが、今の私には心揺さぶられる言葉でした。過ぎた時間は取り戻せません。後悔しないためにも時間を有効に使い、充実した1年となるように意識改革したいと思います。

最後になりましたが、皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、これからご指導ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。

NH O東埼玉病院 ……………工 藤 元 記



国臨協関信支部の皆様、新年あけましておめでとうございます。会員の皆様方におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、4年に一度のオリンピックがロンドンで開催され日本は過去最多のメダル数を獲得しました。なかでも団体競技でのメダル獲得数が多く、一昨年の東日本大震災以降よく言われている「絆」が強く感じられた大会だったように思います。

また私の好きな野球では原巨人が史上初の五冠総取りという、うれしい結果の一年でした。(ちなみに五冠とはレギュラーシーズン、交流戦、CS、日本シリーズ、アジアシリーズの五つです。) こんな結果を残せたのは巨人の中にも「絆」があったからだだと思います。今年も巨人が優勝できるように応援します。

私自身「絆」を大切に今年も頑張りたいと思います。患者様や臨床側から必要とされる臨床検査技師、信頼される臨床検査技師を目指して日々努力し業務に取り組んでいきたいと考えています。また他部門との交流を深めチーム医療に携わるものの一人として貢献していきたいと思っています。当院は昨年11月に新病棟が完成しました。同時に電子カルテが始まり、臨床検査科では検体検査部門システム・細菌検査部門システムが更新され、新たに生理検査部門システムが導入されました。残念ながら病理検査部門システムは今回入りませんでしたが、なるべく早いうちに入れてもらえるように働きかけていきたいと思っています。

最後になりましたが、会員皆様方のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



平成24年度「赤城人財育成・交流研修」に参加して



国立国際医療研究センター病院
大 城 雄 介

平成24年度「赤城人財育成・交流研修」に参加させて頂きました。日常業務の中では職種間でのコミュニケーション不足によるインシデント事例等、様々な出来事に遭遇します。その原因の一つとして職種間での相互理解、チームマネジメントといった臨床の現場に必須である能力がまだまだ足りないと感じております。そこで私は自身のコミュニケーション能力の向上を本研修の目標とし、班別討議が目標の大きな集約点と考えました。最終日の発表に向けて合計六時間にも及ぶ討議を行い、班員それぞれの経験、職種特有の視点から議論が展開されていきました。議論を進めていくうちに、それぞれが役割分担を超えてファシリテーションスキルを身に着け発揮すること

ができるようになり、全員がリーダーでありサイドワーカーであるという、まさにチーム医療の一つの形を垣間見たような気がしました。他にも鍋割山登山、キャンプファイヤー、係活動においても、自主性を持ち運営し成功させることができました。ほとんど交流を持たない職種の仲間達と共に過ごすことで目標であったコミュニケーション能力の向上とともに、今まで持ちえなかった価値観に触れ、視野を広げる機会になりました。

ある研修生の言葉です。「このメンバーだったらすごく良い病院が創れるね」。この研修では、この言葉が真でありチーム医療の原点になるのだと思いました。

最後に、この研修に参加させて頂く機会を与えて下さった当センターの関係職員の皆様、企画して頂いた国立病院機構本部関東信越ブロック事務所の皆様に感謝申し上げます。

「平成24年度 医療職(二)・福祉職スキルアップ研修」に参加して



NHOまつもと医療センター中信松本病院
吉 池 昌 三

10月24・25日の両日、機構本部において「平成24年度 医療職(二)・福祉職スキルアップ研修」に参加させて頂きました。

初日はブロック事務所医療課の塚野氏による「国立病院機構の動向」に始まり、「職場管理者として必要なこと」と題して、様々な施設よりお越しいただいた現役の各職場長よりの苦労話など生の声をお聞きしました。

午後は職種ごと専門職からの連絡事項の後、職場管理者として必要な課題を職種混成の班分けの中で役割分担して、グループ討議と発表を行いました。我班は時間制限がある中意見集約にてこずり、他班の発表が始まってからも発表用資料作成を続けることになってしまいました。

二日目はANAの元CAで教官も務められた講師をお

招きし、コミュニケーションの重要性やメンタルヘルスのお話をお聞きし、午後は新たなグループ分けでゲーム形式のチーム作りを実践しました。様々な情報の書かれたカードを各自に配り、それぞれの持っている情報を出し合って(口頭のみで見せてはいけない)、家の配置や乗り物・ペット・栽培している果物を探り当て、村の地図を作るという物で、最初は謎だらけでどうなる事かと思ったが、徐々に情報の整理が出来てくると夢中になり何時の間にかグループ内に役割分担ができ、チームが出来上がっていました。

この研修でリーダーとなる心がまえや必要なことを学べ、有意義な二日間を過ごさせて頂きました。私のような副技師長一年生は少数派、主任一年目の参加者にも有用だと思います。まだ参加したことのない主任の皆さん来年の受講をお勧めします。最後に講師・参加者の皆様、主催のブロック事務所の皆様に感謝申し上げます。

有志による輸血勉強会発足のご案内

日 時：平成25年 1 月26日(土) 13:00～

場 所：国立がん研究センター中央病院 病院棟 6 階 臨床検査部カンファレンスルーム

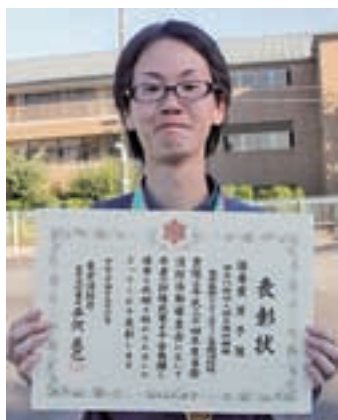
内 容：症例検討および日常業務で困ったこと

世話人：後 藤 信 之 (NHO災害医療センター) 吉 田 茂 久 (国立がん研究センター中央病院)

白 鳥 克 幸 (NHO東京医療センター) 長 島 恵 子 (NHO千葉医療センター)

岩 崎 康 治 (NHO東京病院)

自衛消防活動審査会に参加して



NHO東京医療センター
伊 藤 慧

平成24年9月11日（火）に開催された、目黒消防署・目黒消防団・目黒防火管理研究会が主催する自衛消防活動審査会に参加いたしました。参加事業所数は21社にのぼり、登録チームは、男子隊（男女混成隊を含む）が23チーム、女子隊が3チームでした。

自衛消防活動審査会とは、地震や災害が起こった事を想定し、消防署管内にある事業所において自衛消防活動を行える能力があるかを審査します。地域社会の安全と安心に寄与する事を目的とし、毎年開催されています。

当院も以前より事務部や看護部が主体となって参加していましたが、今年から臨床検査科・薬剤科・放射線科によるコメディカルチームも結成されました。

審査項目は、火災発生時における初期対応、放送設備による連絡および避難誘導、防災センターへの連絡、屋内消火栓の取り扱い、放水から鎮火となっており、報告までの迅速性や正確性を競い、その適正能力・チームワークを消防隊により審査されます。我々コメディカルチームは、残念ながら最優秀賞は逃したものの、優秀賞を頂く事ができました。今回の審査は、主に初期消火（消化器や屋内消火栓の使用）に重点を置いたものでした。自衛消防には他にも避難誘導や応急救護などの知識も必要です。火災や地震などが発生しない事が一番望まれますが、万が一このような事態が起こった際は、今回経験し学んだ事を生かし、被害を最小限に止める事に少しでも貢献出来たら良いと思っています。

また審査会を通して、今まで交流を交える機会が余り無かった他職種とのコミュニケーションを多く計る事が出来、貴重な経験となりました。今回このような機会を与えて頂き、小松技師長、山崎副技師長および協力していただいた病理検査室のスタッフの皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

東京・埼玉・山梨地区会設置推進部会議事要旨

開催日時：平成24年9月15日（土）17:00～18:30

場所：国立国際医療研究センター病院 3Fミーティングルーム

出席者：東京・埼玉・山梨地区代表

内野臨床検査技師長（東京）

小関副臨床検査技師長（東京）

石井臨床検査技師長（埼玉）

川村副臨床検査技師長（埼玉）

南雲臨床検査技師長（山梨）

国臨協関信支部

浅里支部長、金子事務局長、田島顧問、

峰岸副支部長

【代表者及び構成員】

代表者（部会長）及び構成員は以下に決定した。

部会長 内野 厳治（NHO村山医療センター）

部 員 石井 幸雄（NHO東埼玉病院）

南雲 功（NHO甲府病院）

川村 公彦（NHO西埼玉中央病院）

小関 満（国立成育医療研究センター）

峰岸 正明（国臨協関信支部代表）

【経 過】

1. 平成24年6月30日 国立療養所多磨全生園にて開催された平成24年度東京・埼玉・山梨地区臨床検査技師長会総会で国臨協関信支部より「東京・埼玉・山梨地区会のあり方についてのWG」の立ち上げが提案された。
2. 提案を受け総会で東京・埼玉・山梨地区の上記代表メンバーによるWGの立ち上げを決定した。
3. 平成24年9月15日 国立病院臨床検査技師長協議会関東信越支部総会・研修会の終了後、「東京・埼玉・山梨地区会のあり方についてのWG」第1回会議を開催した。
4. 会議では東京・埼玉・山梨地区の地区会設置を前向きに考えることとし、平成26年度頃を目標とした。以下に主な討議及び決定事項を記す。

【WGの名称】

1. WGの名称を「東京・埼玉・山梨地区会設置推進部会」とする。
2. 部会は国臨協関信支部に属する。

【今後の活動予定】

1. 平成25年1月発行の関信支部ニュースに「東京・埼玉・山梨地区会設置推進部会」設置を掲載し会員に広報する。
2. 今年度の国臨協関信支部地区代表者会議に部会長が出席し「東京・埼玉・山梨地区会設置推進部会」設置の趣旨報告を行う。
3. 平成25年度の東京・埼玉・山梨地区臨床検査技師長会総会と同日開催する研修会へ当該地区の関信支部一般会員の参加を呼びかけ、地区会発足の第一歩とする。
4. 開催場所は国立国際医療研究センター病院を第一候補として今後、東京・埼玉・山梨地区臨床検査技師長会に提案を行う。
5. 研修会の席上で「東京・埼玉・山梨地区会設置推進部会」の内容を説明し、一般会員等へ周知と共に理解をお願いする。
6. 期間を設け地区会設置についての意見を施設ごとにとりまとめ検討する。

地 区 会 だ よ り

平成24年度国臨協関信支部群馬地区会定期総会・研修会を終えて



NHO沼田病院
太田 明 宏

平成24年10月6日(土)NHO高崎総合医療センター大会議室において、平成24年度国臨協関信支部群馬地区会定期総会および研修会が開催されました。会員23名の参加に加え来賓として、関東信越ブロックの上條臨床検査専門職、

国臨協関信支部の浅里支部長にご臨席を賜りました。

初めに教育講演として、NHO高崎総合医療センターの遠藤主任より「国立国際医療研究センター病院における国際協力とラオス病理の現状」と題し貴重な発表をして頂きました。経緯は、ラオス健康科学大学準教授ベッサモン医師の招きで、海外青年協力隊の方々と共にラオス病理を支援する会が2007年に発足。ラオス病理の現状や問題点として下記のことが掲げられるそうです。1) 病理医、病理検査室が少ない。2) アルコールやキシレンが高価。3) ラオス人は日本人ほど勤勉ではないが自立を行わせたい。4) 支援の状況をチェックする必要がある。5) 中古機器が多く壊れると修理不能などの問題をかかえています。発展途上国であるラオスは熱帯地域でマラリアなどの感染症も多く見られます。現状は、経済が発展してから病理検査を始めるのでは遅く、今から少しずつ対応ができるよう支援しているとのことで、NPO法人化した今後も継続的な支援ができることを期待しています。

総会に先立ち、上條臨床検査専門職からの連絡事項として、東日本大震災について、日本医師会精度管理結果報告、臨床検査部門の現状と課題、NCとの交流を含めた人事異動、新採用者の登録選考試験・主任技師等任用候補者選考等、多様な内容を分かりやすく説明して頂きました。引き

続き浅里関信支部長より支部からの報告および今後の活動についてのお話しをして頂きました。

総会は、小川群馬地区会会長と浅里関信支部長の挨拶に始まり、平成24年度経過報告、会計報告、会計監査報告、平成25年度事業方針案、予算案が審議され、平成25年度役員を選出し新役員の挨拶をもって無事終了しました。

総会終了後は高崎駅前の居酒屋にて懇親会が行われ、会員同士の親睦がより一層深められたと思います。

最後になりましたが、お忙しい中ご出席頂きました上條臨床検査専門職、浅里関信支部長に心より御礼申し上げます。

平成25年度関信支部群馬地区会役員

会 長	野 田 岳	(NHO高崎総合医療センター)
事務局長	金 子 勇	(国立療養所栗生楽泉園)
理 事	藤 本 敬 久	(NHO高崎総合医療センター)
理 事	松 本 善 信	(NHO西群馬病院)
理 事	上 野 将 臣	(NHO沼田病院)
会 計	関 口 友 一	(NHO高崎総合医療センター)
会計監査	小 川 勝	(NHO沼田病院)



関信支部群馬地区会レクリエーションに参加して

NHO高崎総合医療センター 竹 内 紗耶香

去る、平成24年7月21日(土)、群馬地区会主催のレクリエーションが会員17名参加のもとに行われました。

昨年同様にパークレーン高崎においてボーリング大会を開催しました。ボーリングが得意な人・苦手な人、体調が優れず本領発揮といかない人などいましたが、それぞれが日頃のストレスも込めつつ思い思いに投球しました。最後

に順位発表を行い、参加者全員に景品が行き渡りました。

ボーリング終了後、高崎駅前の居酒屋にて懇親会を行い、最近高崎総合医療センターで活用している小物を交えて他施設の方とも楽しく交流することができました。

県内4施設離れていますが、このような会を通して交流を深め、繋がりを持つことも業務に役立つことと思います。参加して頂いた方がありがとうございました。



地 区 会 だ よ り

第31回国臨協関信支部神奈川地区定期総会・研修会



NHO久里浜医療センター
大 場 南

平成24年10月13日(土)にNHO箱根病院にて、第31回国臨協関信支部神奈川地区定期総会及び研修会が清々しい秋晴れの下、上條臨床検査専門職、浅里支部長のご出席を賜り、会員39名の参加を得て開催されました。

研修会の学術講演ではNHO箱根病院神経筋・難病センター研究検査科長である三原正敏先生に『筋疾患と筋生検』についてご講演をして頂きました。筋疾患の診断にはまず採血や筋電図検査が思いますが、より精度の高い検査法として筋生検による筋病理検査が行われています。講演では筋肉の基礎の部分から各々の筋疾患にみられる病理的所見などを分かり易く説明して頂きました。筋病理を行っている病院は少なく、筋生検や筋病理についての講演も聴く機会があまりないため、今回、貴重なお話を聴くことができ、大変勉強になりました。

続いて、上條臨床検査専門職からは機構の現状、人事交流、主任候補者選考試験、新採用試験、共同購入などについてお話を頂きました。主任候補者選考試験や認定資格支援制度など自発的にスキルアップするようにしていかなくてはならないと改めて感じました。

定期総会では会長挨拶、来賓の浅里支部長挨拶及び関信支部からの報告の後、議長に選出された吉田技師長の進行のもと、議事である平成24年度経過報告、会計報告、会計監査報告が承認されました。続いて議案審議である平成25年度事業方針案、予算案が承認され、最後に次年度の役員が選出、承認され定期総会は終了しました。

その後、場所を小田原に移し、懇親会が行われました。会員からは32名、さらに上條専門職、浅里支部長にもご参

加頂き、盛大に開催されました。

最後になりましたが、三原先生、上條専門職、浅里支部長には心より御礼申し上げます。

平成25年度関信支部神奈川地区役員

会 長	川 畑 久	(NHO相模原病院)
事務局長	菊 間 伸 二	(NHO神奈川病院)
理 事	近 藤 正	(NHO箱根病院)
理 事	佐久間 みゆき	(NHO横浜医療センター)
理 事	大 場 南	(NHO久里浜医療センター)



国臨協関信支部新潟地区定期総会・研修会



NHO新潟病院
菅 井 めぐ美

平成24年11月3日にNHO新潟病院において、国臨協関信支部新潟地区会定期総会・研修会が開催されました。当日は天候に恵まれ、新潟病院の裏手にあります赤坂山の紅葉も見頃でした。

来賓に上條臨床検査専門職と、国臨協関信支部から浅里支部長にご出席を賜りました。

研修会では、新潟大学呼吸循環外科 新潟大学災害・復興科学研究所の榛沢和彦先生と、上條臨床検査専門職からご講演いただきました。

はじめに、榛沢先生から「東日本大震災後の静脈血栓症(エコノミークラス症候群)予防検診経過とイタリア北部地震の調査結果」と題して、避難所での下肢静脈エコーの検診の様子や結果を詳しくご講演いただきました。被災者の方に血栓症予防のための弾性ストッキングをはいてもらうまでに苦労したことや、避難所の環境の悪さとDVTの関係、高血圧とDVTの頻度は相関しているとの研究結果も聞くことができました。今後さらなるご活躍をお祈り申し上げるとともに、私も微力ながら予防検診業務に協力していきたいと感じました。

次に上條臨床検査専門職から「臨床検査部門の現状と課題」と題して、試業共同入札による経営改善や、人材育成を大きなテーマとしてご講演いただきました。今後特に注目すべきことの一つにコンサルテーション能力が大切だと

教えていただきました。検査結果に対して正しい解釈が出来、その結果を適切に臨床に伝える知識を身につけていかなければならないと改めて感じました。

定期総会では、関信支部浅里支部長にご挨拶と関信支部活動報告をしていただきました。その後H23年度の経過報告とH24年度の事業計画案が審議され、会員の承認をもって無事終了いたしました。

最後になりましたが、お忙しい中ご講演していただきました榛沢先生、上條臨床検査専門職、ならびにご出席いただきました浅里支部長には心より御礼申し上げます。

H24年度新潟地区役員

会 長	桑 村 良 隆	(NHO新潟病院)
副 会 長	中 村 宏 紀	(NHOさいがた病院)
事務局担当理事	菅 井 めぐ美	(NHO新潟病院)
会計担当理事	霜 田 由美子	(NHO西新潟中央病院)
会 計 監 査	岩 間 裕 子	(NHOさいがた病院)



国臨協関信支部 今後の日程

第5回国臨協関信支部主催研修会

日 時：平成25年1月19日（土）
 場 所：国立国際医療研究センター 研究所会議室A、B
 内 容：超音波検査士認定試験対策セミナー
 講 師：基礎分野 前 島 基 志 主任技師（国立国際医療研究センター病院）
 循環器分野 植 松 明 和 主任技師（国立国際医療研究センター病院）
 腹 部 分 野 宮 越 基 主任技師（国立がん研究センター中央病院）

国臨協関信支部主催症例検討会

日 時：平成25年 2 月23日（土）
 場 所：国立国際医療研究センター 国際医療協力局 5階大会議室
 症例呈示施設：NHQ横浜医療センター

平成24年度退職会員を囲む合同交流会のお知らせ

日 時：平成25年 4 月20日（土）
 場 所：アルカディア市ヶ谷

同日は、同会館にて関信支部定期総会および研修会を開催する予定です。
 詳細につきましては後日お知らせいたします。

平成25年度国臨協関信支部 役員公募のお知らせ

役員推薦委員長 日 吾 雅 宜
 役員推薦委員 内 野 厳 治
 役員推薦委員 樋 口 久 晃

平成25年 4 月の国臨協関信支部定期総会において役員の改選を行います。

国臨協関信支部役員推薦規程第3条により役員を公募いたします。

候補者は下記の要領にて委員会へ郵送またはメールにて書類を提出してください。

記

1. 施設名・氏名・年齢・性別
2. 職務歴
3. 会員歴
4. 国臨協関係役員歴
5. 抱負（簡単に）

締め切り 平成25年 3 月 8 日（金）

提出先 〒351-0102

埼玉県和光市諏訪2-1

NHQ埼玉病院 臨床検査科 日吾 雅宜

m-higo@wakho.hosp.go.jp

人 事 異 動

【平成24年10月 1 日付 採用者】

氏 名	新施設名	新職名
小 林 沙 織	国立がん研究センター中央病院	非常勤

【平成24年11月 1 日付 採用者】

氏 名	新施設名	新職名
長 尾 郁南子	国立がん研究センター中央病院	非常勤

【平成24年11月 1 日付 配置換え】

氏 名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
櫻 井 明 子	国立がん研究センター東病院	非常勤	国立がん研究センター中央病院	非常勤

編 集

後 記

会員の皆様、明けましておめでとうございます。
 表紙の写真は、NHQさいがた病院 大木
 翔平さんに投稿していただきました。
 さて、皆さんお年玉はもうあげましたか？

子供にとって一大イベントの一つですからね。

あげる立場にとっては、少し痛い出費になりますが、
 かわいい子供達が一年を元気に過ごしてほしいという願
 いを込めて、気持ち良く渡してあげましょう。そして、
 自分自身としては、お年玉年賀はがきの1等が当たって
 欲しいと願っています。（広報 長井 俊道）